

九重火山の火山活動について (2003年1月~5月)*

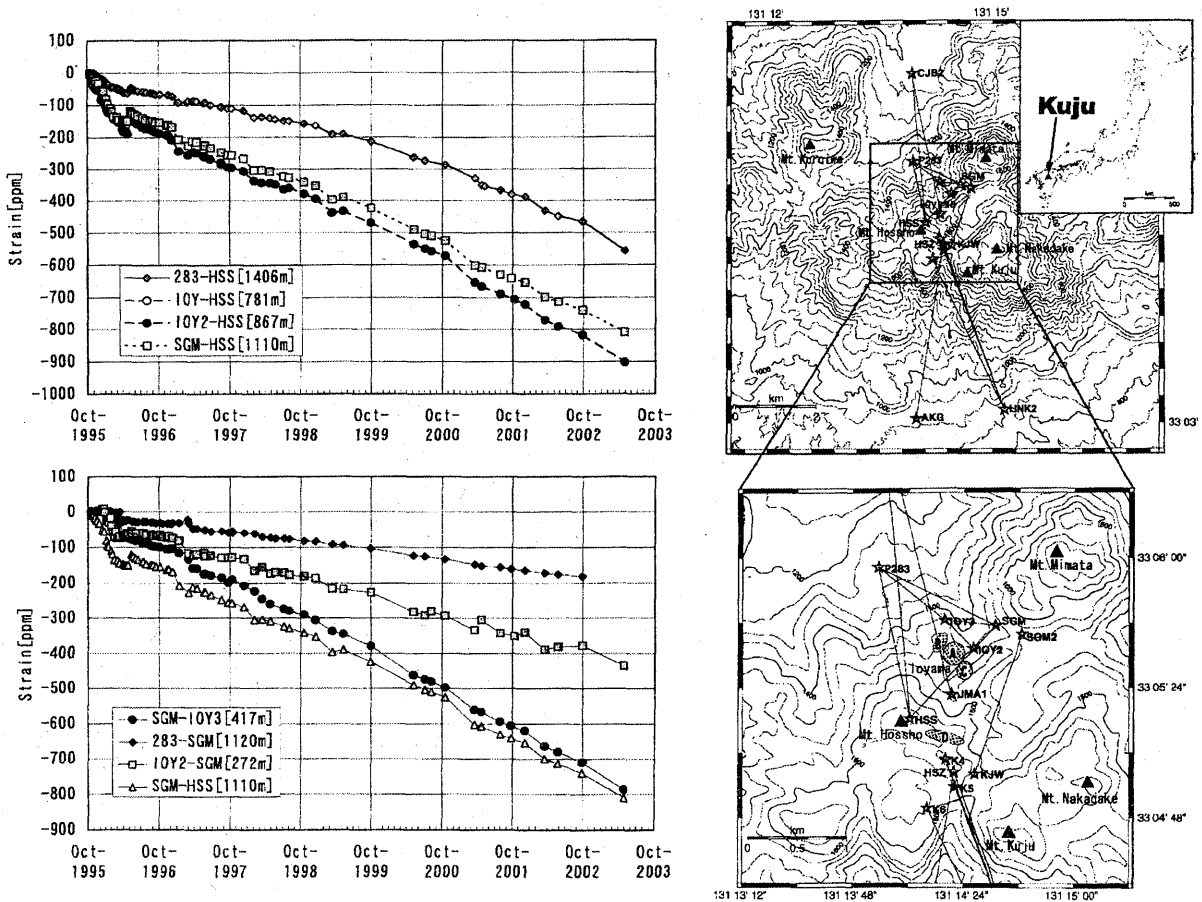
Recent Volcanic Activity of Kuju Volcano (January~May, 2003)

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター
Aso Volcanological Laboratory, Faculty of Science, Kyoto University

地盤変動

九重火山通称硫黄山の噴火活動が1995年10月に始まって7年半が経過し、常時水蒸気の噴出がほとんど変化せず長期間継続している。

星生山山頂を望む辺長測量結果によれば、1995年10月の最初の爆発から翌年4月までの急激な収縮があった。その後もこの収縮傾向は季節変化があるが依然緩やかであるが、ほぼ直線的に長期間継続している。現在までにすでに約100cm近くの収縮が計測されている。この収縮傾向は、水平の変動と鉛直の変動の二つに合わさった量なので、いろいろな仮定をおいて分けて考えると、旧噴気地域が1年間あたり水平で5cm以上、鉛直で10cm以上収縮したことになる。この傾向が既に7年間も継続している。極めて希有な現象である(第1図参照)。



第1図 光波測量による斜距離変化
Fig.1 Changes of Distances at Io-yama Area.

* Received 29 July, 2003